THE ILC GAZETTE

横浜隼人高等学校 国際語科通信

Vol.6
2017・5・19

ＩＬＣ１年生勢揃い！

１年生　鎌倉遠足（５月１２日）　３クラスが１５班に分かれてそれぞれの班にネイティブの先生が一緒に春の鎌倉を歩きました。みなネイティブの先生と積極的に英語で会話をし、充実した一日になりました。カナダ語学研修に活かせるといいね！

Nice to meet you!　挨拶して。

ほとんどの班が大仏へ。

「お手水」ちゃんと説明できた？

銭洗い弁天で銭洗い体験

絵馬も描きました

小町通りで楽しく買い物

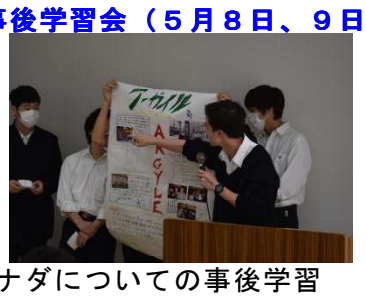
最後はネイティブと
名残惜しく撮影会をしました

今回の遠足で感じた、カナダ研修につなげる意見・感想（生徒の文章から）

今回や普段話すネイティブの先生方にも下手な英語でも少し拾ってもらえるけれど、やはりカナダに行ったらしっかり自分の伝えたいことを正しい表現で伝えないと失礼になったりしてしまうと思うから、コミュニケーションの部分だけでなく文法の部分もしっかり勉強していきたいと思います。カナダまではあっという間だと思うので、色々な英語の勉強をとにかく一生懸命して行きたいと思います。

雨のピースアーチ。
これもいい思い出。

２年生　カナダ語学研修事後学習会（５月８日、９日、１５日）



カナダでの班ごとに、カナダについての事後学習の成果を発表し合いました。

選ばれた２年生の生徒６組が、自分たちのホームステイファミリーを紹介しました。

「異文化理解」についての自分の考え（生徒の文章から）

異文化理解とは文字通り、自分たちとは異なる文化を理解することだが、現代人、特に日本人はこの異文化理解を理解できていないと思う。（中略）もちろん言語の違いも異文化という事になるだろう。だが言語が一緒ならそれで良いのか。それでは紀元前に他の言語を話す人々を「訳の分からない言葉を話す人々」という意味の「バルバロイ」と呼んでいるのと変わりがないように思える。（中略）（異文化理解は）義務ではなく権利なのであって異文化理解とは私たちをさらに成長させてくれる、いわば機会なのだ。例えば大西さんはロシアでの訓練によってロシア人とアメリカ人の第一印象の違いを知ることができ、それら双方の良いと感じた部分を吸収できたのである。異文化理解を理解するとは、異文化と自文化を分けてしまうのではなく、色々な場所や色々な人の良いと思える部分をしっかりと見分け、それらを自分に吸収し「自分化」してしまうことが始めの一歩だと思う。

３年生　ディズニーシー遠足（５月１２日）　たくさんの「楽しい！」をたくさんの写真で紹介！！